
YUIが悪と闘ったら 怪しい集団編 1 4

pokemomtyan

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

YUIが悪と闘ったら 怪しい集団編14

【コード】

N2283U

【作者名】

pokemonmtyan

【あらすじ】

YUI達は、見えない敵と闘うことになる。更に彼奴がくる。

怪しい集団の影（前書き）

感想を書いてね。

怪しい集団の影

部屋に入ったYUI達はどこからか聞こえてくる、人物の声に耳を傾けた。

YUI（な・何？誰かが私達に向けて話をしている・・・。）

長谷川潤（やだ・・気味が悪いわ。）すると、YUI達がいる部屋の扉がいきなり鉄格子がかかりロックされた。更にカーテンも勝手に閉まり、部屋にはただ明かりがついていた。

YUI（私の感だと・・此処の部屋には敵がいて私達は閉じ込められている事になっているわ。）

枝野（そ・其れは不味いぞ。この狭い部屋でもし強敵が現れたら、奴等の思うつぼではないか・・・）

AKIRA（何時もEXILEのメンバー内でも、撮影現場でも温厚な俺でもこりゃあ気を抜いてたらやばい。）

？（うふふ・・此処よ。此処に居るわ。）何処からか細かい不気味な声が響いてきた。

YUI（何処だ！何処にいる！私の見聞色の覇氣の力でも、見極めきれん。）

神崎昴（恐らく・・絶対にこの近くにいますよ・・は！何かの能力者とかだったら、ミクロ単位で小さくなって隠れているのかも。タンスの中を調べてみますね。）神崎は部屋のタンスを探った。

YUI（何処にいるんだ・・あれ？向井さん。何で三角座りしているんですか？）

向井理（い・いいいあ。俺って、柚子胡椒は好きなんだけど・・か・科学で解明できない、こんな怪奇現象はこ・恐いんだよね。だ・だから・・こ・恐がつてるんだ。あ・あんまり話さないでくれ叫！）

YUI（お前の殺気までの勇猛果敢な戦いぶりは何処に言ったんだ怒！）

長谷川潤（数分前は城の食堂って柚子胡椒無いかな） あったら、

盗んでこよう。袖子胡椒　袖子胡椒　って言った人が本当に呆れるわね。）

向井理（た・頼むから何も言わないでくれ・泣。）すると、また声がした。

？（フフフ・本当に何も見えないのね・お馬鹿さんったら。）

YUI（本当にソイツの姿が見えない。）辺りを探っていた、神崎昴が声をかけた。

神崎昴（YUIさん！見つけましたよ！）

YUI（神崎さん！見つけたんですか？敵が！）

神崎昴（はい・此奴は厄介です。）神崎昴は皆の前で振り返った。一同（そ・其れが厄介か・）

神崎昴（タンスの中で見つけました・見てください！この赤と黒が混ざった小悪魔系のパンティとブラでしょう・さ・更に、黒の網タイツに・女子高生の制服にチャイナドレス・まさに、菅謝菅激とはこの事を言うんですね・）神崎は腕を組んで納得した。YUI（お前は何を見つけてるんじゃないや怒！このど変態が叫！YUIは刀の柄で神崎の顎を叩いた。）

神崎昴（ちょ・痛いですよ！あれでも・このブラとかYUIさんに似合いますよ　ほら・上から着せたらこんな感じになりますね）神崎はYUIの後ろにいき、胸の方にブラを合わせてみた。

YUI（ちょ・ちょっと止めようか・お前怒。）

枝野（す・昴・止めなさい・怒。）

神崎昴（うん・驚いた。このブラはおっぱいを寄せて上げる効果もあるんだ。成る程・因みに長谷川さんがつけてみるとこんな感じかな？）神崎は長谷川潤の正面にブラをかざしてみた。

長谷川潤（ふふふ怒・ちょおっと、悪ふざけを止めようか。）

向井理（うわあ・この網タイツとか、付き合っていた真希につけさせてたら・グスン泣・に似合っていたんだろうな。何でもつと楽しめなかつたんだ泣。）向井は泣き崩れた。

YUI（お前もさっきまで恐がっていたのに、何をしようも無いエ

口話に花を咲かせようとするな怒。)

神崎昂(もう、YUIさんや皆さんも怒らないで下さいよ。僕は真剣に敵の情勢を探っているんです。しかし、このパンティも中々、良いな。頭に被って見たら最高だハハハ笑。こんな良いパンティ。この同人誌の作者の彼女も履いた事無いよ。すごく良い。北川さんにもブラとパンティ持っていこう。絶対に似合うし彼女だったら喜んでくれるぞきやは) 神崎はパンティを被り、ルンルン気分ではしゃぎまわった。

YUI(何をお前は作者の個人情報暴露したり。パンティを被ってるんじゃない怒!) YUIは部屋の椅子を持ち上げて昂に向けて投げ飛ばし当てた。

神崎(痛いもう、あ菅。)

枝野(あゝ私も馬鹿だった。あのアホの秘書に何てしたから、可笑しくなっただんだ泣。)

YUI(もう。この同人誌内でも菅病が流行してきましたね。今年の12月ぐらいから相当不味いですよ。此のままでは。) そんな、事を話していると等々、?が正体を現してきた。

?(フッフ笑。アホな人達ね。私は此処にずっといる。つてか、其処の変態が持ってきたブラやパンティは私の物よ全て怒!)

YUI(まさかと思っていたけれど。)

AKIRA(何でこの部屋の絵画が話しているんだ?) 正面に飾っていた絵画が話し出したのである。

YUI(一体。何で?あれ?つてか、この絵画に書かれている女の人見たことがある。)

?(フッフ。もうその絵画にはいないわ。こっちよ。) 後ろの同じ絵の絵画が話していた。

向井(もうあ菅!恐すぎる。向井は耳を塞いだ。

YUI(くそ!実態が掴めない。向井・菅語を話すな怒。) YUIは静かに怒った。

枝野(良く見渡せば。この部屋には同じ女性の絵画が何か所かに

あるぞ！)

神崎昂(あつかパンツ〜わ〜い おいらこんなに大胆な下着がいっぱい入ったタンズ初めてだ〜) 神崎は皆を無視して、パンツやブラや網タイツを驚掴みして、パンツは頭に被りブラも胸の所に付けて、ポケットに沢山入れていた。

YUI(お前は状況を読み!しかも、某漫画の登場人物のセリフパツクってるし怒!)

? (だから、其れはアタシの下着だから、触るなこの変態!怒!)
その女は絵画から飛び出して神崎を掴んで絵の中に連れ出して行った。

AKIRA(絵の中から飛び出した!)

枝野(昂が!)

YUI(神崎さん!)

神崎昂(助けて〜この女の・ひ・人いい匂いがしてる・けど。) 神崎は絵の中に連れて行かれて消えた。

YUI(思い出した!あの女の人・前にテレビ局で会った事がある。最近もテレビに出てるし。)

? (遅いわ怒!この小娘怒!) ?は違う右側の箇所にあった絵画の中から、飛び出してきて手に槍を持ち振り回しながら、YUIを斬ろうとした。

YUI(喰らうか!必殺・aroom斬り!) YUIのもろはの剣が、?の槍を弾き?はまた、違う場所にある絵画の中に逃げた。

YUI(思い出した!貴方だったのね。変な能力を使っていたのは怒。)

水川あさみ(ハハハ笑。本当はこんな事したく無いんだけど、NHK大河ドラマのギャラが安すぎてこんな商売をやっているのよ。水川の胸元にはEの組織のバッチが付いていた。

YUI(Eの組織。。。)

AKIRA(あっ!お前も此処でサボっていたのか!皆怒ってたぞ。さっさと帰って来いよ!)

水川あさみ（私はYUIと闘いたいの怒！あんだ等の相手はあいつ等よ。）すると、何処からかティーカップや家具、ナイフ、フォーク、包丁、ハンマー、釘、画鋸がいきなりYUI達に向けて、いきなり飛んできた。他の皆も避けたのだが、いきなり壁に当たったはずの凶器が反転して一味を襲った。

長谷川潤（きやく肩にハンマーが当たった。）

向井（逃げてても工具が追ってくる、ぐはあ！ナイフが腰に刺さった。枝野&AKIRA（武器で弾き返したら、落ちて来るが何なんだ！ポルターガイストか？）

YUI（いや・ポルターガイストじゃ無い・・・この能力は前に・喰らうか！Noway弾き飛ばし！）YUIは一点に覇気を集めて、飛んでくるものを弾き飛ばした。

YUI（お前だろ出てこい叫！）すると奴が出てきた。

海江田万里（えくだだ笑。久しぶりだなYUI。あの時は良くも僕のマトマトの実の能力を見切り、斬ってくれたな。だが、今回は僕も頭を使った。狭い部屋でしかもEの組織と結託し、貴様等を消し去り尊敬する中国様や温家宝様、更に胡錦濤様にこの日本をプレゼントするんだえくだだ笑。）

枝野（海江田貴様怒！）

AKIRA（YUIちゃん・彼奴の変な模様の実はどんな特性なんだ？）

YUI（アイツの能力は、一度自分の手に触れた者に対して物を投げると例え避けたとしてもずっとその武器が永久に追ってくるんだ。簡単に言つとドッジボールだと有利になる能力だ怒。）

水川あさみ（よそ見をするな！喰らえ！ラストフレンズ突き！）水川はYUIの後ろから飛んできて、素早くYUIの右手を貫こうとした。

YUI（喰らうか！必殺！YourHeaven斬り！）YUIは槍を弾いたが、水川の覇気ので壁飛ばされた。

長谷川潤（YUIちゃん！大丈夫！）

YUI（痛い・頭を打った。）

水川あさみ（隙あり！同じ事務所の関係で、上野樹里ちゃんと良く共演する突き！）YUIは立ち上がってよけようとしたが右肩を貫かれた。

YUI（が・痛い！クソ怒！）YUIは水川を斬ろうとしたが、水川は素早く後ろの絵の中に飛びんだ。

水川あさみ（私は性格きついのは笑。）

YUI（ハアハア。お前も変な模様の実の能力者か？）

水川あさみ（フッフ笑。そうよ。私は中学生の頃、思春期で将来の進路にも迷っていて悩んでいてむしゃくしゃして夜中泣きながら部屋にこもっている時に、お父さんが私の部屋の扉を少し開けて、おぼんを置いたのよ。後で見ると、食べ物と手紙がそえてあったのよ。こう書かれていたわ。あさみ・悩み事があつたら何時でも相談しなさい。家族は味方だからな・それと、お父さんが会社の帰りに百貨店で高級そうなフィリピン産の果物を買いました。一つだけしか店頭に無くて、5000円もしましたが、あさみの為に奮発して買いました。因みに実の名前は、変な模様の実だそうです笑。可笑しな名前と模様が編だろう笑。まあ、食べて見なさいと書かれていたわ。それが私のこの能力！絵画の中に自分の体事を入れる能力を身に着けたのよ。おほほほ！）

YUI（文章長いし・普通はそんな実が売つたら買わんぞお前の親父はどんな神経しとるんじゃー叫！）YUIは突っ込みを入れた。

水川あさみ（お父さんの悪口言わないで怒！その後、モデルでデビューしたりしたし・まあ、お父さんにこんな能力が付いちやいましてって言ったたら、お父さんは笑みを堪えて・ぷぷ。やったなあ。あさみお・お父さんこんなに笑うの生まれて初めてだ・（小さい声で。）あゝ・俺が食べなくて良かった変な能力・ぷぷぷぷぷぷぷ笑。って、笑っていたけれど、シャイだからそんな笑い方なのよ）

YUIお前が可哀想だし！最低な親父だー叫！）続

怪しい集団の影（後書き）

感想を書いてね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2283u/>

YUIが悪と闘ったら 怪しい集団編 14

2011年10月9日02時58分発行